

## 審判講習会（車椅子バスケットボール） 参加報告書

平成30年6月10日

報告者 白石 義人

この度参加しました、審判講習会について報告します。

なお、この報告書が、審判委員会ホームページ等に掲載されることを了承します。

<b>講習会名 (大会名)</b>	天皇杯 第46回日本車いすバスケットボール選手権大会 3次ラウンド
<b>参加者 (報告者)</b>	白石 義人 (しらいし よしひと)
<b>期 日</b>	平成30年 5月 18日(金) から 平成30年 5月 20日(日)
<b>会 場</b>	武蔵野の森総合スポーツプラザ(東京都調布市)
<b>参加者</b>	菅野 英輔、杉山 兼芳、門川 浩人、増竹 昇、加藤 昌樹、岸 良太郎、齋藤 登、平田 貴浩、小野 裕樹、蝦名 准、二階堂 俊介、児玉 陽子、斗沢 祐香、立田 裕志、免田 佳子、四方田 麻菜美、一箭 良枝、田中 敏弘、小嶽 悠、金川 光一、玉井 聡、今村 和成、板垣 善久、白石 義人、川村 貴昭、三木 大助、初瀬 真由子
<b>報告① 講義</b>	<p>本大会の規則運用について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 現行の競技規則</li><li>・ ハブの突起について</li><li>・ 前輪間のバンパーは、先端が200度を越えないように</li><li>・ 車椅子の計測スケジュールについての確認</li><li>・ コミッショナー、スーパーバイザーの役割</li></ul> <p>講義「プレイ・コーリング・ガイドラインについての映像研修」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ UFについてクライテリアを確認(C1~C5)</li><li>・ バンパーを使って、ゼロポジションになることもせず、押し続けるプレイ</li><li>・ スクリーンプレイのケース</li><li>・ 選手交代の対応について(有利なポジションの引き継ぎ防止)</li></ul>

<p><b>報告②</b> <b>ゲーム</b></p>	<p>■ゲーム 日時 5月19日(土) 埼玉ライオンズ 対 福岡breez</p> <p>■割当 クルーチーフ 金川 光一 氏 (北陸・A1級審判員) アンパイア1 板垣 善久 氏 (近畿・B級審判員) アンパイア2 白石 義人 (報告者)</p> <p>■プレ・ゲーム・カンファレンス プレイコーリングガイドライン、交代の時の選手管理、タイマー、ショットクロックの管理、ビッグローテーション、スーパーローテーション等コミュニケーションを取ってスムーズに出来るよう打ち合わせをした。特に交代の時ポジションを取り続けて引き継ぐ行為を未然に防げるよう、アウトのプレイヤーを先に出して交代要員をインさせる事の徹底にトライしようとした。</p> <p>実際コートに立つと、交代要員が先に入ってしまうのをとめる事ができず、なかなかうまく選手管理することができなかった。選手やベンチへの伝え方を工夫すればよかったと反省した。</p> <p>プレーの合間、目を離している時に選手が転倒するケースが多く、どちらが仕掛けたかわからずにアンスポを取り上げてしまったケースがあった。</p> <p>■ミーティング 主任より、3人の協力という点が不足していたのではないかと、特にクルーチーフの金川さんがファールを取り上げた後、次のポジション取りがはじまっていてレポートに行けず困っていたシーンがあり、残りの2人が何らかの対応をしてほしかった。</p> <p>大きな転倒が何回もあったが、誰も見ていなかったりノーコールであったりと、不安な展開だった。誰かが目を当てれるようにしてほしいとお話をいただいた。</p>
<p><b>所感</b></p>	<p>今回自身初めて選手権本大会に参加させていただき、またそのタイミングで初の選手権3次ラウンド制になった事もあり、国内最高峰の試合をじっくり見させていただく事が出来て、大変勉強になりました。</p> <p>特にA級審査にのぞまれた6名の方々においては、誰一人劣ることなく強い気持ちでコートに立たれていて、感化されるものがありました。</p> <p>まだまだ自分は足りない部分もたくさんあると思いますが、彼等に負けないよう、またトップレフリーの方々に少しでも追いつけるよう、日々精進していきたいと思っております。ありがとうございました。</p>

# 審判講習会 参加報告書

平成 30 年 5 月 22 日

報告者 川村 貴昭 印

この度参加しました、審判講習会について報告します。

なお、この報告書が、審判委員会ホームページ等に掲載されることを了承します。

<b>講習会名 (大会名)</b>	天皇杯 第 46 回日本車いすバスケットボール選手権大会 最終ラウンド
<b>参加者 (報告者)</b>	川村 貴昭
<b>期 日</b>	平成 30 年 5 月 18 日 (金) から 平成 30 年 5 月 20 日 (日)
<b>会 場</b>	武蔵の森総合スポーツプラザ
<b>参加者</b>	日本車いすバスケットボール連盟所属審判員 27 名
<b>報告① 講義</b>	本大会の規則運用について (抜粋) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現行の競技規則に基づき実施することの確認</li> <li>・ ハブの突起については、メーカーが作成したカバーで覆う</li> <li>・ 前輪間のバンパーは、先端が 200 度を越えないように確認</li> <li>・ 車椅子の計測についてのスケジュールについて</li> <li>・ コミッショナー、スーパーバイザーの役割について</li> </ul> 講義「プレイ・コーリング・ガイドラインについての映像研修」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ UF についてクライテリアを確認 (C1~C5)</li> <li>・ バンパーを使って、ゼロポジションになることもせず、押し続けるプレイ</li> <li>・ スクリーンプレイについて (ステーションナリーしていないものを中心に)</li> <li>・ 交代の時機の対応について (安易に選手を招き入れず、交代するプレイヤーを把握する)</li> </ul>
<b>報告② A 級審査</b>	ルールテスト <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現行競技規則の条文および interpretation より、20 問の正誤問題</li> <li>・ IWBF 競技規則より、英文にて 5 問の正誤問題</li> <li>・ 具体的なケースを提示され、それについてどのように規則を適用するのか、3 問の文章記述</li> </ul> 体力テスト (フィットネス・テスト) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽に合わせてのシャトルラン</li> </ul>
<b>報告③ 実技</b>	■ゲーム 日時 5 月 19 日 (土) 16 時 50 分～ 福岡 breez 対 富山車椅子バスケットボールクラブ ■割当 クルーチーフ 児玉 陽子 (東北) アンパイア 1 四方田 麻菜美 (関東) アンパイア 2 川村 貴昭 (報告者) ■プレ・ゲーム・カンファレンス 審査ゲームということで、3 人が自分のプライマリを追及しながら、自分らしく思い切りトライしていく旨を共有した。 現行の競技規則の変化について共有した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フェイクファウルの追加 (条文)</li> </ul>

	<p>JBA のプレイ・コーリング・ガイドラインにもある「フェイク」の概念が車いすバスケットにおいても条文として掲載。車いすバスケットの「フェイク」とはどのようなものにあたるのかをしっかりと挑戦するとともに、まずはイリーガルなものをシンプルに判定をしていくことを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・UF のクライテリアの追加への対応と適用について（昨日の講義も参考にして）</li> </ul> <p>メカニクスについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・L、C、T のプライマリエリア・アングル、ベーシックローテーションの確認</li> <li>・メカニクス通りにいかないプレイへの 3 人の協力について（ビッグローテーション、スーパーローテーションについての意思疎通）</li> <li>・2or3、OOB、タイマー・クロックの確認（正しい情報を持って、それを表現していくこと）</li> <li>・コートプレゼンスへのトライ（Verbal support）</li> </ul> <p>両チームの特性、キーマンについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・両チームには互いにハイポインターの選手がいる。リフティング含め、インサイドの攻防をしっかりと判定していく旨話し合った。</li> </ul> <p>■ポスト・ゲーム（アドバイス等）</p> <p>前半、ファウルとして取り上げたものの中に、接触の原則の重要なところ（しっかりと見極めをしないといけないところ）があったので、次への糧にしてほしい。プレイの起こりと経緯をよく確認して判定をすると、よりよい判断ができる。後半はしっかりと修正し、ポジショニング含め、いい位置で強い判定があつて説得力があつた。最終局面でクロスゲームの展開となったが、無事に終わらせることができたのがよかった。1 試合を通じて、Verval support をつきつめてトライしている姿勢が良かった。周りから見て、わかりやすかった。</p>
<p><b>報告④</b> <b>3 位決定戦</b></p>	<p>■ゲーム 日時 5 月 20 日（日）12 時 15 分～ ワールドバスケットボールクラブ 対 埼玉ライオンズ</p> <p>■コミッショナー業務を担当</p> <p>レフリー、TO とのセッションとして、CM 業務を担当させていただいた。TO スタッフについては、今大会は東京オリンピックに向けての講習会を兼ねており、素晴らしい研修を重ねており、明確な役割分担と協力する姿が印象的だった。4 名の TO チームがしっかりと業務を進めていくなか、自分は交代およびタイムアウトの最終的なサポートや、レフリーの判定後の TO 業務について、試合の全体を見ながら皆さんとコミュニケーションを取りながら進めた。あとは JBA からの TO 講師から、車いすバスケットの競技規則に関わることの質問を受け、回答した。（クライテリアやフェイクファウルについてなど）</p> <p>私自身も、B リーグ発足より TO 業務（主にスコアラー）を担当しているが、具体的な声かけや 4 人の協力などについて、たいへん勉強させていただいた。</p>
<p><b>所感</b></p>	<p>今年度より、日本選手権大会がラウンド制に変わり、最終ラウンドということで日本最高峰の大会に参加させていただいた。昨年度と変わり、「天皇杯」を掲げ、重みのある大会に参加させていただいたことを嬉しく感じた。様々なことが変化していく中で、今までと違う大会形式、試合の雰囲気を感じながらも、今の自分にできることを着実に積み重ねていき、審査を合格するという目標を意識して臨んだ。</p> <p>試合は、タフで激しい様相を見せながら進んでいき、苦しい局面もあった。しかし、クルーのおかげで何とか乗り越えることができ、無事に試合を終えることができた。色々なプレッシャーがあるときこそ、これまで積み重ねてきた自分を信じて、ベーシックにシンプルに取り組むことの大切さを改めて実感することができた。</p>

今回の A 級審査に合格することができたが、ここから新たなスタートであるという思いを持って、引き続き挑戦していく覚悟である。仲間の方々から「A 級としての責任」についてのお話もあった。その意味をこれから考え、取り組んでいきたい。果たすべき役割、責任の重要性を感じながらも、自分が取り組んでいくことは特別変わらない。今までと同様、目の前の試合を 1 つ 1 つ真摯に取り組み、グッドゲームに向けて貢献できるよう励んでいきたい。

自分のこのたびの挑戦について、たくさんの方々から応援、励ましをいただいたことが自分の何よりの力となった。愛媛県、四国の仲間、そして全国の仲間の支えなくしては成すことができなかったと思う。この場を借りて、心から感謝申し上げます。

そして最後になりましたが、今大会に携わったすべての方々のたくさんの支え、心遣いに深く感謝申し上げ、私の報告とさせていただきます。本当にありがとうございました。